



教育コンテンツの世界的コンクール 第50回日本賞 ファイナリスト決定

NHKが主催する教育コンテンツの国際コンクール「日本賞」。世界中の教育コンテンツの質の向上に貢献することなどを目的として、1965年に創設されました。第50回(※)を迎えたことは、世界55の国・地域から391の作品と企画が寄せられ、そのうち34がファイナリストに残りました。ウクライナの戦争が10代の若者にもたらす影響、ティーンエイジャーの性の悩み、多様な家族のカタチなど、今日的なテーマを反映した力作の数々から、どの作品がグランプリを獲得するのか、ぜひご注目ください。

(※1973年～1991年まで隔年開催、それ以外毎年開催)



第7回(1971年)のグランプリ日本賞受賞作は 「セサミストリート」

当時の最先端のテレビ表現技法を駆使した革新的な演出と、人種差別や経済格差に苦しむ子どもたちにテレビを通じて学びを届けようとする姿勢が評価されました。受賞をきっかけにNHKでの定時放送が始まりました。

時代を映す第50回ファイナリスト作品

戦争やポストコロナで将来の不透明さが増すなか、若者たちが社会課題を自分ごととして捉え、解決の糸口となることを目指した作品がファイナリストに選ばれています。本格的なドキュメンタリーやドラマ、アニメーションなど、幅広い世代に向けた教育コンテンツが揃いました。

幼児向け部門(0～6歳)



I-011
アニータのすてきな世界
パーティー
コロンビア

5歳の子どもアニータを通して、自閉症の子どもの素敵な世界を知る。

児童向け部門(6～12歳)



E-100
目指せ！パラアスリートチャンピオン
クライミング編
カナダ

優秀なパラアスリートたちが競い合う究極のスポーツ大会。クライミングの勝者は？

青少年部門(12～18歳)



Y-031
プロジェクトエイリアン
日本

マイノリティーの若者たちがアバターとなり、VR空間で共生して互いを理解していく。

一般向け部門(18歳以上)



L-010
父親の科学
ドイツ

父親となった男性の心と体に起きる変化を、さまざまな研究知見を紹介しながら追う。

※詳しい作品解説は別紙「日本賞2023 ファイナリスト作品一覧」を参照

<第50回日本賞の対象・部門について>

5つの部門で審査します。**コンテンツ作品**については対象年齢で分かれた4つの部門があり、番組だけでなく、映画やビデオ作品、ウェブ・ゲーム・アプリなどのデジタルコンテンツも対象です。10月3日(火)にそれぞれの部門の最優秀賞作品をオンライン発表し、その中から11月23日(木・祝)の日本賞映像祭最終日に「**グランプリ日本賞**」が選ばれます。

また、制作条件が十分でない国・地域ですぐれた教育番組の企画が実現するよう、賞金で支援することを目的とした**企画部門**も2003年から設けています。

第50回日本賞 PR大使にハリー杉山さんが就任

2020年の第47回から2022年の第49回まで、日本賞のクライマックスとなる授賞式で司会を務めてきたハリー杉山さんが、第50回PR大使に就任しました。ことしも11月の映画祭を盛り上げていただくほか、関連番組などに出演します。

<ハリー杉山さんコメント>

第50回日本賞PR大使に任命され、光栄な気持ちとともに、またこの場に立てることに深く感謝しています。国境や文化、社会に存在する様々な壁を崩すために教育は不可欠です。ただ押しつけの教育では何も実りません。日本賞に登場する作品は学ばなくてはいけないことだけではなく、年齢に関係なく、人に考える力、そしてそこから行動へと繋げる力を与えてくれます。人生をかえる作品にも出会えるかもしれない。今年はどうな心を動かす作品が我々の元へと訪れるのでしょうか？楽しみです。



11月「日本賞映像祭」開催



■日時: 2023年11月20日(月)～23日(木・祝)

■会場: WITH HARAJUKU HALL(東京・原宿)

受賞作品の上映会と、その制作者や審査委員を迎えて、来場者とのディスカッションを開催します。

最終日には各部門の最優秀賞作品の中から「グランプリ日本賞」が選ばれます(企画部門の各賞も同時)。

■イベントはすべて、一般の方も無料で参加いただけます。10月初旬より受付を開始します。詳細は日本賞ホームページで近日発表します。

<ファイナリスト作品はどなたでも視聴いただけます>

ファイナリストに選ばれた4部門・28本の作品は、11月13日から12月3日の期間、日本賞公式ホームページの特設イベント配信プラットフォームで視聴いただけます。作品はいずれも英語版ですが、これらのうち最優秀賞や優勝賞などの受賞作品9本(10月3日に発表)は、11月20日以降、日本語字幕付きで視聴いただけます。

また、グランプリを含む受賞作品は、年度内にEテレで放送する予定です。

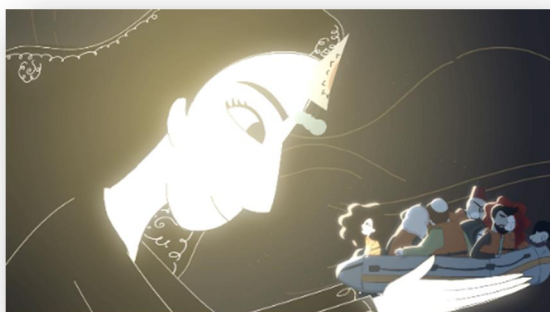
☆記者のみなさまへ ぜひ受賞作品や映像祭を閲覧・ご取材ください☆

記者の方については、取材のご希望がある場合は10月3日以降、ファイナリスト作品や受賞作をいつでも試写いただけるほか、制作者にも通訳付きでオンライン取材できるよう、調整いたします。

11月の映像祭も、最終日の授賞式だけでなく、上映会やパネルディスカッションについてもご取材いただけます。ぜひご検討ください。

映像祭前日に“第49回グランプリ作品”を放送

■放送予定:11月19日(日) 午後3時30分～ Eテレ
アニメーション映画「ドゥーニャとアレッポのお姫様」(カナダ制作)



日本賞映像祭の開催前日の11月19日(日)には、前回・第49回のグランプリ日本賞受賞作品「ドゥーニャとアレッポのお姫様」を放送します。

内戦によって祖国シリアを追われ、難民となった6歳の少女ドゥーニャの旅路を描くアニメーション映画です。シリア難民の子どもたちへの取材をもとに、彼ら彼女らの実体験とファンタジーとをかけあわせた、希望と勇気あふれる物語です。



<日本賞公式ホームページ>

10月3日(火)に第50回日本賞の受賞作品9本を
発表し、映像祭への参加受付を開始します。
詳しいことはホームページをご覧ください。

<https://www.nhk.or.jp/jp-prize/>



NHKは、国連とメディアが共同で実施するキャンペーン「1.5℃の約束 - いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。」に参加しています。

NHKの最新のプレスリリース 経営/コンテンツ・サービス
<https://www.nhk.or.jp/info/>

※「どーも、NHK」Twitter(@nhk_domo_nhk)でも情報発信しています

